

居酒屋カンちゃん

(新宿区)



キラ・カンさんとプロレス談議も楽しめる「居酒屋カンちゃん」―東京都新宿区

韓国料理店がひしめくJR新大久保駅近くの「コリアタウン」に、新潟ゆかりの店がある。「居酒屋カンちゃん」(新宿区百人町1)。切り盛りするのは、燕市(旧吉田町)出身の元プロレスラー、キラ・カンさん(69)。「本名小沢正志」だ。巨体を揺らし毎日店に立つ「看板男」を目当てに、大勢のプロレスファンや県人が集う。「モンゴリアン・チョップ」を必殺技に、悪役としてリングで大暴れた「蒙古の怪人」。店内には「人間山脈」アンドレ・ザ・ジャイアントやハルク・ホーガンらとの激闘の写真がずらりと並ぶ。店のモットーは「うまく、安く、

`蒙古の怪人、気さくに

多く。豚串や牛モツ煮込み、ギョーザなどガッツリ系が人気で、新潟の酒も充実。歌手の故尾崎豊さんが愛したカレーライスは、今も看板メニューだ。

「料理人は一流。いい加減な料理は出しません」とカンさん。自らのつべを作ることもある。ちなみにモンゴル料理はないそうだ。

「プロレスと居酒屋の経営は一緒」。客が求めるものを見極め、最高のパフォーマンス、一皿を提供する。熱いリング魂は今も健在だ。

客が求めればプロレス秘話を明かし、記念撮影も気さくに応じる。「やっぱり新潟の人間。お人よしなんです」。笑顔が優しい。

問い合わせは、03(5285)1115。

新潟の人情、地酒、旬都内で

ガード下立ち飲みで安く

頭上に響く電車の音を聞きながらちよっと一杯。御徒町のガード下の「味の笛 本店」(台東区上野5)は長年、地元で愛される立ち飲み居酒屋だ。新潟の地酒をそろえ、古里を懐かしむ県人も利用する。

都内に食品スーパーなどを展開する「吉池」(東京)直営の店だ。同社の創業者が旧松之山町出身という縁もあり、味の笛近くにある同社のスーパーでは県内各地の地酒を販売する。店ではそのお酒を提供するため、1合300円からと値段設定は低めだ。

カウンターに並ぶアテ(つまみ)も

味の笛 本店

(台東区)

スーパーの鮮魚を使い、鮮度と安さ売りをする。好きなアテを選んで酒を注文するセルフサービス方式。JRのガード下のため、ガタンゴトンと電車が走る音も味わい深い。夕方からは会社帰りの人々にぎわう。通い始めて12年という高根典文さん(72)は「新潟の酒はうまいよね。2千円あれば十分楽しめる」と話す。かつて本県から上京する人たちにあって東京の玄関口だった上野(かいじ)界隈は、本県出身者にとってなじみ深い街だ。

吉池の小林英典常務(十日町市出身)は「見知らぬ県人同士が会っ

て話が弾むこともあります」と話す。問い合わせは、03(3883)5828。



立ち飲みで気軽に新潟の地酒を楽しむ「味の笛 本店」―東京都台東区

郷土の味一堂

表参道・新潟館ネスパス

(渋谷区)

「新潟」を味わうなら、やはりアンテナショップ「表参道・新潟館ネスパス」(渋谷区神宮前4)。館内の日本料理店「静香庵」は旬の素材にこだわり、居酒屋「新潟食楽園」はリーズナブルな郷土料理が自慢だ。

静香庵では、昨年2月に安倍晋三首相や岸田文雄外相らがノドグロ塩焼き、新潟和牛、ブランド米「新之助」を堪能。首相との関係が微妙とされる自民党の野田聖子衆

院議員も同席したが、新潟の食材を前に和気あいあい、盛り上がったという。「満足そうに完食してくれました」と支配人料理長の山田哲也さん(50)。

新潟食楽園はタレカツ丼やふのりそば、栃尾の油揚げが人気メニュー。70種類近い地酒があるが、糸魚川大火の後、被災した「加賀の井酒造」の日本酒が品切れに。復興を後押ししようと大勢の客が注文したた



接待での利用も多いネスパス内の「静香庵」―東京都渋谷区

めで、全国の善意と糸魚川の懸け橋にもなっている。

問い合わせは静香庵が03(5771)8500、新潟食楽園は03(5775)4322。